

台風や大雨が接近！

●最新の気象情報を確認する



テレビやラジオで発表される気象庁からの注意報・警報に注意しましょう。

●避難に関する情報を確認する

市からの防災行政無線（戸別受信機含む）や広報車等の避難に関する情報に注意し、確認しましょう。

●浸水などが予想されたら早めに避難する

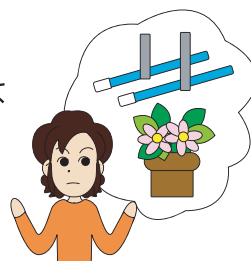
隣近所に声を掛け合い、できるだけ集団で避難しましょう。
危険な状況の中での避難は避け、安全の確保を第一に考えましょう。
すでに浸水が始まった段階での避難の際は、浸水区域内の通行を避けるなど、安全な避難経路を選択し、避難しましょう。

●むやみに外出しない

やむを得ず外出する際は、危険な場所には近づかないようにしましょう。

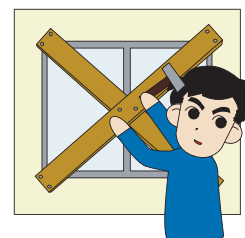
●家の外を確認する

飛ばされそうな物、流されそうな物をしまいましょう。



●家の中を確認する

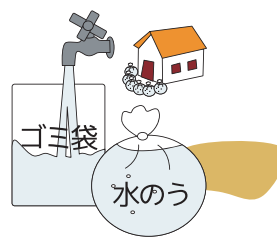
窓ガラスの破損の備え、内側からテープを貼る、カーテンをおろすなど。



●大事な家具を高い場所（2階など）に移動させる

●簡単な浸水対策をする

土のうや水のうで入り口を囲む。タオルで窓の隙間をふさぐなど。



●家族の居場所を確認する

離れていたら安否を確認。避難を事前に連絡。



●避難の準備をする

避難

気象庁からの気象情報

台風、大雨のときは、注意報・警報・特別警報に注意しましょう。

注意報

警報

特別警報

災害が起こる恐れのあるときに、注意を呼びかける。

重大な災害が起こる恐れのあるときに、警戒を呼びかける。

重大な災害の起こる恐れが著しく大きいと予想される場合、警戒を促す。

市からの避難に関する情報

避難準備情報が発令された場合、要配慮者の方など、避難に時間がかかる方は、直ちに近くの避難所へ避難しましょう。
避難勧告・避難指示が発令された場合、直ちに近くの避難所へ避難しましょう。

避難準備情報

避難勧告

避難指示

避難又は避難準備を呼びかけるもので、特に要配慮者などに早めの避難を呼びかけます。

災害の発生又は被害が発生する可能性が高まったため、居住者へ避難を勧め促すものです。

被害の危険が切迫したときに避難を指示し、「勧告」より拘束力が強くなります。

さまざまな災害とその特徴

台風

台風が接近して災害発生の恐れが高まった場合には、台風情報と合わせて大雨、洪水、暴風などの防災気象情報が発表されます。
情報に注意し、早めに避難しましょう。

集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、最近ではゲリラ豪雨とも呼ばれ被害を拡大しています。狭い地域に突発的に降るため予測が困難です。気象情報や起きている現象から判断し、行動することが重要です。

竜巻

最近では、突然の竜巻の発生により甚大な被害を受けることが増えてきています。竜巻の予測は大変困難ですが、気象情報に注意して早めの行動が大切です。

土砂災害

山間部や段差のある高台などでは土砂災害の危険があります。これらの地域は台風や集中豪雨・地震によって大きな被害を受けることが考えられるので、かけ崩れ、地すべり及び土石流などに十分注意しましょう。土砂災害は、雨が止んでからも発生することがあります。

洪水のときの避難の注意点

- 足元に注意
水面下はどんな状況かわからない。長い棒や杖がわりにして安全を確認しながら歩くとよい。
- はき物
裸足・長靴は禁物。ひもで締められる運動靴がよい。
- 歩ける深さ
歩ける深さは男性70cm、女性50cm。水深が腰まであるようなら無理せず救助を待つ。
- ロープでつながって
はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しよう。特に子供から目を離さないように。
- 子供やお年寄りを安全に
お年寄りや身体の不自由な人などは背負う。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保する。

